R8.10.21

令和8年度 保土ケ谷支援学校不祥事ゼロプログラム 中間検証実施結果報告

1 前期評価

評価観点：◎…よく心がけた、○…意識して取組み、△…今後

		校務グループ				指導グループ				
No.	項 目	管理運営	教育企画	教育支援	連携支援	小学部	中学部	高等部	舞岡分	横浜平沼分
1	法令遵守意識の向上（法令の遵守、服務規律の徹底）	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
2	職場のハラスメント（パワハラ、セクハラ、マタハラ等）の防止	○	○	○	◎	○	○	◎	○	○
3	児童・生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の防止	—	◎	○	◎	○	○	◎	○	◎
4	体罰・不適切な指導の防止	—	○	○	◎	◎	○	○	○	○
5	入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防	—	○	○	◎	○	○	△	◎	○
6	個人情報等の管理、情報セキュリティ対策	○	○	◎	◎	○	○	—	○	○
7	交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	—	○	○	◎	○	○	○	○	○
8	業務執行体制の確保等(情報共有、相互チェック体制、業務協力体制)	◎	○	○	○	○	◎	○	○	◎
9	財務事務等の適正執行	○	○	○	○	○	○	◎	○	○

2 特記事項

【教育企画】

3→7月28日に外部講師を招きスクールセクハラに関する研修会を実施。小グループでのロールプレイや協議を行い、スクールセクハラ防止の意識を高めることができた。

【連携支援】

8→進路支援班のグループチャットを作成し、情報共有を強化し、班会記録用紙を改良し、効率化をすすめた。

6→個人情報のファイルを支援室から持ち出す際にチャットで報告し、所在不明を避ける仕組みにした。

【小学部】

4→学年会で、さんづけ呼称をはじめ人権を意識できる研修会、ケース会を実施し、学部会で共有し、不適切な指導防止に努めている。

【中学部】

8→事故・ヒヤリハット事案のクラスや学年で話し合った再発防止への取り組みを学部全体で共有している。

【高等部】

1→教員間での何気ない会話や生徒へのかかわりについて、生徒が見ている、聞いていることを踏まえて誤解のない指導・支援を意識するよう、学部会にて注意喚起を図った。

4→検診時の身体支援の必要性について、人権的な視点から本人への事前の受診練習など事前指導をふまえた上で十分に配慮するよう、周知を図った。

【舞岡分教室】

5→個人情報配付の際には、前日までに準備を完了し複数名で確認後に生徒へ直接手渡しするように留意した。

【横浜平沼分教室】

3・4→生徒指導においては複数の教員で対応し、密室対応や適切な言葉づかいで対応できた。

8→教員間のコミュニケーションを意識することで、事故防止の徹底を図ることができた。